

生活指導分科会

I 研究のあゆみ

4月22日(月)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月20日(月)	研究計画の検討	【南天白中】
5月下旬～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月16日(火)	研究内容の検討(研究のまとめ方)	【南天白中】
8月中	レポートの検討 【全体での会は開かなかったものの、指導者と個別に検討】	
9月5日(木)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【南天白中】
9月21日(土)	第74回名古屋市中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに掲げ、次のような視点で研究に取り組んだ。

- 1 子どもの気持ちを大切に、実態を正しく把握した上で、子どもたち一人ひとりをどう理解し、支援していくのか。
- 2 集団の質を高めるために、活動をどう充実させ、発展させていくのか。
- 3 家庭や地域との連携をどう進めていくのか。

その中で、以下のような実践が報告された。

- 自分のよいところを友達に認めてもらうことの心地よさに気付かせたり、ロールプレイングを通して、自分のよいところを発揮する練習をしたりすることで、自他のよさを認め合い、よりよい人間関係を築いていくことができるようになる実践。
- 学級目標を達成するための小目標を決め、その小目標を学級全体で達成しようとする意欲を高めたり、自分の理想とする姿を考え、その姿に必要な力を身に付けさせる活動をしたりすることで、目標に向けて挑戦することができるようになる実践。
- これまでに気付いていなかった自分の持ち味に気づき、その持ち味を生かす場面を探し、自己有用感が高まる工夫をすることで、生徒が集団へ貢献できるようになる実践。

3つの実践は、自発的に子どもが自己の成長をめざすという点で共通している。そして、それには教師の支援が必要不可欠であり、どのように教員が関わるのが効果的なのかを試行錯誤しながら実践を進めた。

III 今後に残された課題

3つの実践が有効であることが報告されたが、どの実践でも、めざす子どもの姿に近づいてはいるものの、課題も少なからず残された。特に授業で練習したことが実生活でよりできるようにしたり、実践の期間を終えてもめざす子どもの姿を維持させたりするために、実践の工夫や継続が必要との報告があった。また、実践によっては個人差があるため、個別での支援も必要であることが挙げられた。